

体験活動に係る実践事例



「生命の尊さを理解させ、動物愛護の心を培う体験活動」を中心に生活科における継続的な動物飼育に係る指導方法の開発等に取り組んでいます。体験活動の実施に当たっては、学校担当獣医師から支援を受けています。



新宿区立東戸山小学校

【実践の概要】

- ヤギとの関わり方について、児童が世話やふれあい活動をしている場面で、ヤギが安心してふれあえる方法や助言を受けました。
- 獣医師の仕事、ヤギ以外の動物についての話をし、生命の尊さや動物愛護についての理解が深まりました。



ヤギとふれあいを行っている様子

【児童の反応】

- 第1、2学年とも動物が苦手な児童がいますが、学校担当獣医師を通じたふれあい体験を行うことで怖がらずに接することができるようになりました。
- 学校担当獣医師の指導や、動物とのふれあい体験の学習を通し、動物をよく観察することで気持ちが分かるようになることを学びました。
- 動物と仲良くなるには、動物の気持ちを考えてお世話することが大切であることを学び、生命を大切にすることの大切さに気付くことができました。



大田区立赤松小学校

【実践の概要】

- モルモットの関わり方について、学校担当獣医師により、モルモットが安心できる抱き方やストレスを少なくする方法を話していただきました。
- 心音機を使って、児童は、人間、ウサギ、モルモットの心臓の音を聴きました。
- モルモット飼育の引継ぎの際に、1年生の保護者へ事前のアンケートをとり、アレルギーの有無について確認をしました。



モルモットの抱き方の指導を受けている様子

【児童の反応】

- モルモットの正しい抱き方を知ることで、怖がらずに自信をもってモルモットを抱ける児童が増えました。また、週1回のゲージの大掃除や毎日の簡単清掃に自信をもって取り組めるようになり、朝の簡単清掃を自主的に行う児童が増え、習慣化されてきました。
- ふれあいの際のブラッシング、鳴き声の聞き分けなど、実践を通してモルモットがリラックスしている様子を把握できるようになりました。
- 心臓の音を聴き比べて小動物の命の大切さを多くの児童が実感することができました。



世田谷区立松原小学校

【実践の概要】

- 第1学年では「なかよくなろうね 小さなともだち」、第2学年では「めざせ 生きものはかせ」の単元で実際に動物とふれあう活動を行いました。
- 体験活動では、ウサギやイヌとふれあい、それぞれの動物を抱いたり、心音を聴診器で聞かせてもらいました。また、動物とふれあうことで気付いたことをワークシートに記入しました。
- 第1学年、第2学年ともに2回ずつ、全4回に分けて実施しました。学校担当獣医師には毎回3名来校していただきました。飼育しているウサギは2羽なので、近隣小学校から4羽借りて実施しました。



イヌと触れ合っている様子

【児童の反応】

- 「イヌとウサギでは心音の聴こえる速さがちがう」「ウサギはだっこするとあたたかい」など、動物に対しての愛着の気持ちが芽生えていることが感じられました。
- イヌとウサギの体験活動に対して、たくさんの大人が関わっていることや、心音を聴き、自分の心音と比較することから「命の大切さ」について気付くことができました。
- 2年生は動物とのふれあいが2年目となり、昨年度と比較して「他の動物の心音はどのように違うのか調べてみたい」などという感想をもつ児童が増え、より深く動物との関わりをもつことができました。



青梅市立第四小学校

【実践の概要】

- 第2学年の生活科「生きものはっけん」の単位において、継続的な動物飼育に関わる活動を計画しました。
- 昨年度の2年生からチャボのお世話の仕方を教わり、さらに学校担当獣医師から生態や飼育の方法について指導を受ける時間を設定しました。
- 学校担当獣医師から餌を食べやすくすりつぶしたり、配合飼料以外に家庭から出る野菜の切りくず等を持ち寄ったりして栄養を与えるとよいことや、チャボの健康観察の仕方や抱き方も教わりました。
- チャボの飼育を継続し、積極的に関わることで、2年生児童のチャボへの愛情が育まれました。現在では、3羽のチャボについて2年生児童は、特徴や性格を理解し、世話ができるようになっていました。また、チャボの容態についても「元気がない動きだ」「とさかの色がよくない」等、担任にすぐ報告するようになりました。



獣医さんへチャボの特徴を紹介している様子

【児童の反応】

- チャボの世話を始めた頃は、怖がって近づけずにいた児童もいましたが、継続したお世話を通して、今では2年生の児童全員がそれぞれのチャボの性格も理解し、愛情をもって笑顔で接するまでに至りました。
- 飼育栽培委員会の児童や飼育担当教員も2年生児童と一緒にチャボの世話をするので、安心して活動しています。また、チャボの身になって接しようとする優しい姿が見られます。



日野市立豊田小学校

【実践の概要】

- 2学年の生活科「ヤギのミルクのお世話をしよう」の学習で、「観察」「餌やり」「水やり」「散歩」「飼育小屋の掃除」「ブラッシング等のスキンシップ」を行う中で、動物への親しみや命の大切さを実感させています。
- ヤギの世話の仕方を説明した「ヤギのお世話ガイドブック」を作成し、1学年児童に引き継ぐことを通し、自らの成長を感じることができる活動を展開しています。



「ヤギとなかよし！」触れ合い授業

【児童の反応】

- 動物への関心が高い児童が多くいましたが、学校担当獣医師による授業によって、より一層の興味や関心を引き出すことができました。
- 事前にヤギの行動の特徴をプレゼンテーションしてもらったことで、これまで動物に触れたことがなかった児童も、抵抗感なく触れることができました。また、イヌやウサギの心音を聞く体験では、小さな生き物にも生命があることを実感し、新たな気づきや発見ができました。